

技

技術士の取得支援や相互研鑽、情報交換を促進して NTTグループとその関係会社の技術者の育成をサポート

- 科学技術全般にわたる高等な能力を持つ技術者の資格として位置付けられている「技術士」。中核技術者として社会への貢献が期待される技術士の資格取得とともに、資格保有者の相互研鑽や情報交換等を支援する「NTT関係技術士の会」が発足（2009年）した。ここでは同会発足の背景とその活動のメリット等について紹介する。

技術系最高レベルの国家資格「技術士」の取得と活動を支援

「技術士（Professional Engineer）」は、技術系最高レベルの国家資格である。技術士になるには、文部科学省が所管する国家試験に合格することが必要だ。技術士試験は、第一次試験（択一式）と第二次試験（論文試験、口頭試験）がある。第二次試験に合格後、所定の登録手続きをして初めて技術士となる。技術士の資格を取得することで、技術力のアピールとともに、ビジネスチャンスの拡大も図れることから、NTT関係各社では、技術士資格の取得を奨励している。

10年程前からNTTグループ各社の技術士有志を中心に、年数回の勉強会を行ってきた。この勉強会では、専門分野の技術発表に留まらず、社会情勢の分析と現状への対応などについても論議してきた。この中で、NTTグループ各社に所属する技術士の集まりをつくることが提案された。2008年にアンケート調査を実施したところ、多くのNTTグループに所属する技術士から技術士の集まりへの参加意向が寄せられた。さらに、通信建設会社などのNTTグループに関係する会社からも

参加したいとの要請を受け、2009年5月に元NTT取締役の池田博昌氏を会長とする「NTT関係技術士の会」が発足した。NTT関係会社に所属しているか、そのOBで、技術士、技術士補資格保有者はもちろん、技術士試験受験希望者や技術士制度に興味のある人が入会できる。2010年9月末現在、個人会員152名、法人会員8社となっている。

技術力のアピールとともに ビジネスチャンスの拡大を図れる

NTT関係技術士の会では、情報交換会や研究会の開催をはじめ、技術コンサルティング業務や講師・トレーナー・監督員の紹介などの事業にも取り組んでいる。同会では、技術士資格保有者が増加することにより、各社に次のようなメリットが得られると考えている。

- **入札機会拡大（入札要件のクリア）**：入札要件として技術士資格を要求されるケースが増えている。
- **建設工事実施体制の整備（監理技術者資格保有者数の確保）**：建設業法によると、特定建設業者が元請として外注総額3,000万円以上となる工事を発注者から直接請け負う場合には、監理

技術者を現場に配置する必要がある（建設／電気電子部門等の技術士は監理技術者となる）。

- **海外企業・協会等の産業・技術需要の動向把握**：中国、韓国をはじめとしたAPEC参加国・地域、ASEAN加盟国など、海外の産業・技術関係組織との交流を通じて多方面の技術需要動向を把握して、ビジネスチャンスを拡大できる。

- **技術力のアピール**：資格保有者数を会社概要などに掲載することで、技術力をアピールすることができる。

- **社員の技術レベル向上**：技術士資格保有者を増やすよう奨励することで、社員の技術レベルの向上が期待できる。

NTT関係技術士の会は、今後の取組みとして「グローバル化・国際化傾向の強まる中、的確な広報・情報提供を基本に、意見交換と相互研鑽、業務提携と相互協力、資格取得支援（技術士・技術士（総合技術監理）・APECエンジニア・EMF国際エンジニア）などを順次進めていきたい」と語っている。

● お問い合わせ先 ●

NTT関係技術士の会
E-mail : office@nttpe.org
URL : http://www.nttpe.org/